



[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

米合衆国建国来 100 年以上続いたモンロー主義に回帰するトランプ

アメリカの英国植民地 13 州は 1776 年 7 月 4 日に独立宣言をし、英国との独立戦争を開始、1783 年 9 月 3 日独立軍は勝利した。

当時世界は英国をはじめとする欧州が中心であったことからアメリカ合衆国の英国からの独立は欧州からの分離独立でもあった。

独立した合衆国は欧州の列強からの関与を絶ち切り、他国に邪魔されることなく合衆国を欧州列強に負けない強国にしようと決意したのであった。

合衆国第 5 代大統領ジェームズ・モンローは 1823 年 1 月の年頭教書でアメリカと欧州の相互不干渉を原則とするモンロー宣言を行った。

以後アメリカは 1941 年 12 月 8 日日本の真珠湾攻撃で第二次世界大戦に参戦するまで 100 年以上の間モンロー主義という「引きこもり政策」を維持した。

米軍主導で連合軍を勝利に導いた第二次大戦後、アメリカは世界の警察官となり、朝鮮戦争、ベトナム戦争、中東戦争、そしてウクライナ戦争、イスラエル・ハマス戦争と戦後から今日までのあらゆる戦争に関与してきたが今なお世界の秩序を正すことが出来ない。

トランプはおそらく直感でアメリカを本来のアメリカに戻さなくてはならないと感じたのであろう。

トランプのアメリカファーストと MAGA(Make America Great Again)を貫く精神は、建国以来アメリカ伝統のモンロー主義(不干渉主義)に他ならない。

世界中日本を含む約 30 か国に米軍基地を配備し、四六時中監視衛星で覇権地域を監視しているアメリカに軍事脅威はない。

アメリカが、軍事脅威がないのにあるとするのは軍拡の口実である。

戦後のアメリカの軍事覇権は経済安保確保の為である。

「アメリカ経済のコメ」である原油は 1970 年代の石油危機以来中東に依存していたことからアメリカはシーレーンの安全航行の為米軍の軍事覇権維持が必要であった。

2014 年からアメリカの原油生産高はサウジアラビアを抜いて世界一になり、現在のアメリカのエネルギー自給率は 106%である。(日本は 11.3%)

経済安保が保障された今、戦後から維持されてきたアメリカの軍事覇権体制は時代遅れになってきた。

オバマ大統領、バイデン大統領、そしてトランプ前大統領も口を揃えて「アメリカは最早世界の警察官ではない」と宣言している。

世界の警察官でなくなったことはアメリカの戦後が終わったことを意味する。

トランプが中国に過酷な関税をかけるのは重大な理由があつてのこと。

対中制裁関税は、オバマ政権以来懸案になっている「米中戦略的パートナーシップ」という名の G2 (Group 2)の中国との交渉を有利にする為の手段である。

(G2 とはアメリカと中国の二大国がアジア・太平洋の秩序に共同責任を負うこと)

第一次大戦においてモンロー主義のアメリカは、敵対する英国側とドイツ側の双方に武器を売り、戦争資金を貸付けて「漁夫の利」を得た。

トランプは分断された世界から距離を置き、双方を戦わせて漁夫の利を得ようとしている、正にアメリカ本来のモンロー主義復帰である。

日本人として知らねばならぬことは、トランプは最重要同盟国日本をどのように利用しようとしているかである。

それが分かれば我々は先手を打って、一足先に儲けることが出来る。

増田塾の「本日の国際情勢」で勉強すればいい！

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。